

「佐倉道を歩く」-2

コース：東中山駅～船橋～大神宮下駅

令和元年度 佐倉学入門講座 座学

2019.10.30 蕨 由美



「二子浦の池」 (湧水池) の看板

本郷・二子地区の台地の南がわ下のほうには、溜と呼ばれる池がいくつもあり、水田に水をひくためのほか、日常生活にも利用されていました。

このあたりは、中世は、二子浦と呼ばれる海に面しており、日蓮上人が、鎌倉との行き来のために船出したという言い伝えがあります。



庚申塔 文政6年(1823)

本郷村との境に、中山村の講中によって建てられました。

この坂を上ると寺内村に至ります。

正面「庚申塔 如日月水明 能除諸幽冥」
右面「文政六癸未年」 左面「十一月吉日」





葛飾神社

葛羅の井のそばにあった元宮「葛飾大明神」を、勝間田の池のほとりの熊野神社に合祀し「葛飾神社」としたのは、大正5年（1916年）のこと。境内には、熊野神社のころからのクロマツがそびえています。

元宮は旧本郷村の鎮守であり、葛飾郡の総社でした。

「葛飾大明神」を示す町石（道標）が階段左の斜面に移されています。

宝暦11年（1761）「是よりかつしか大明神一町半」

文政11年（1828）「一郡惣社葛飾大明神道 従是一町余」

測量の際の標高（5.3m）の基本となる点におかれた「水準点」の石があります。



宝暦11年町石

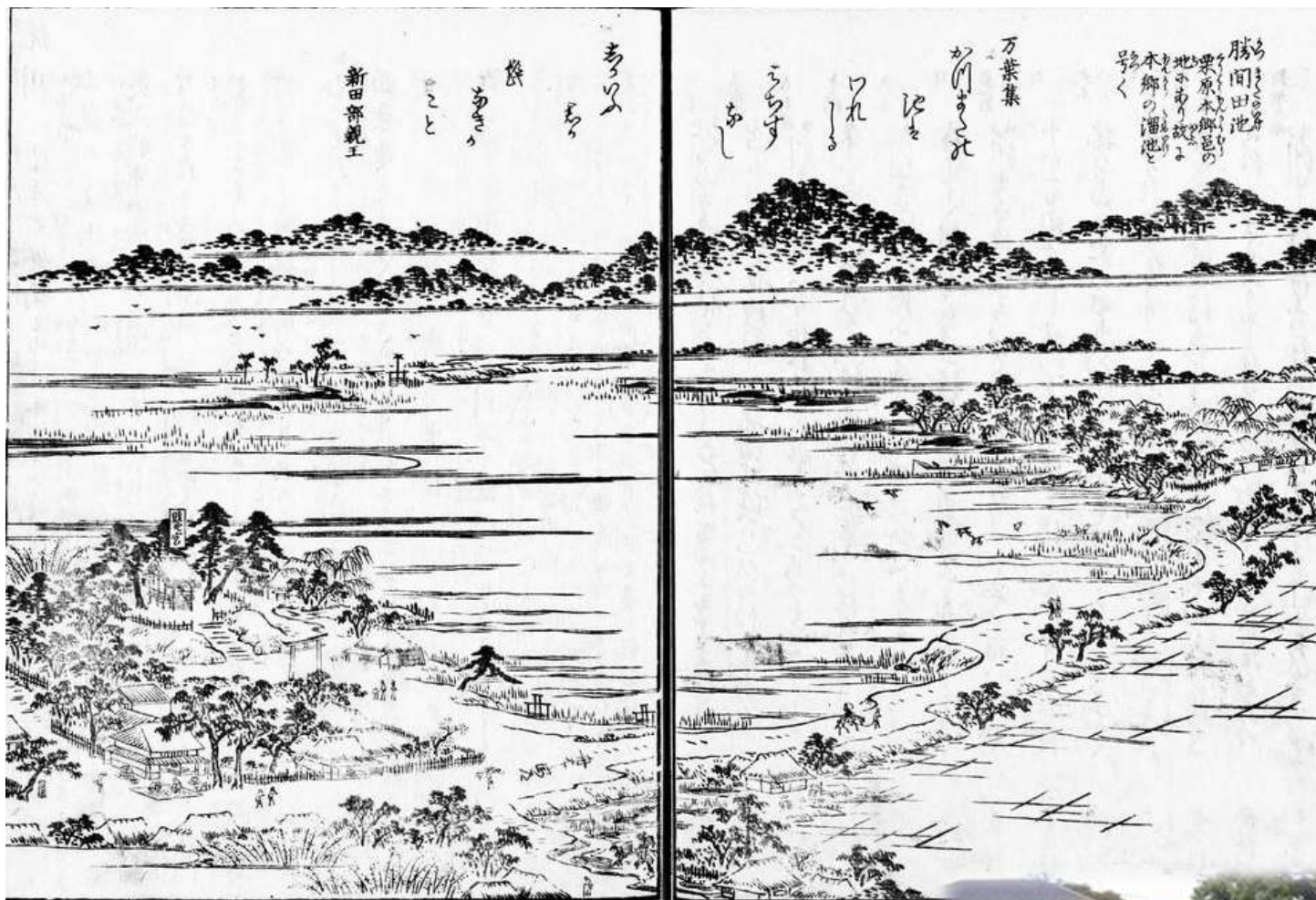


文政11年町石



水準点の石

『江戸名所図会』
天保7年（1836）



「勝間田の池」跡

「折り所」（おりと）の池（「葛飾誌略」文政年間）、または本郷の溜池と呼ばれた池を、江戸時代の文人たちにより、万葉集の奈良の勝間田の池になぞらえ、また春日神社を奈良の春日山に擬して、その風光をめでました。中世は舟着場であった。

昭和40年頃に埋められて、公園になっています。





西船橋の行田方面入口三叉路の石塔群

庚申塔

寛政12年（1800）寺内新田の講中17人が建立
台石右面「是より／かまがやみち」

庚申幢 年代不詳 日月と三猿を浮彫り

古峰神社石祠



無線電信所道標 大正6年(1917)

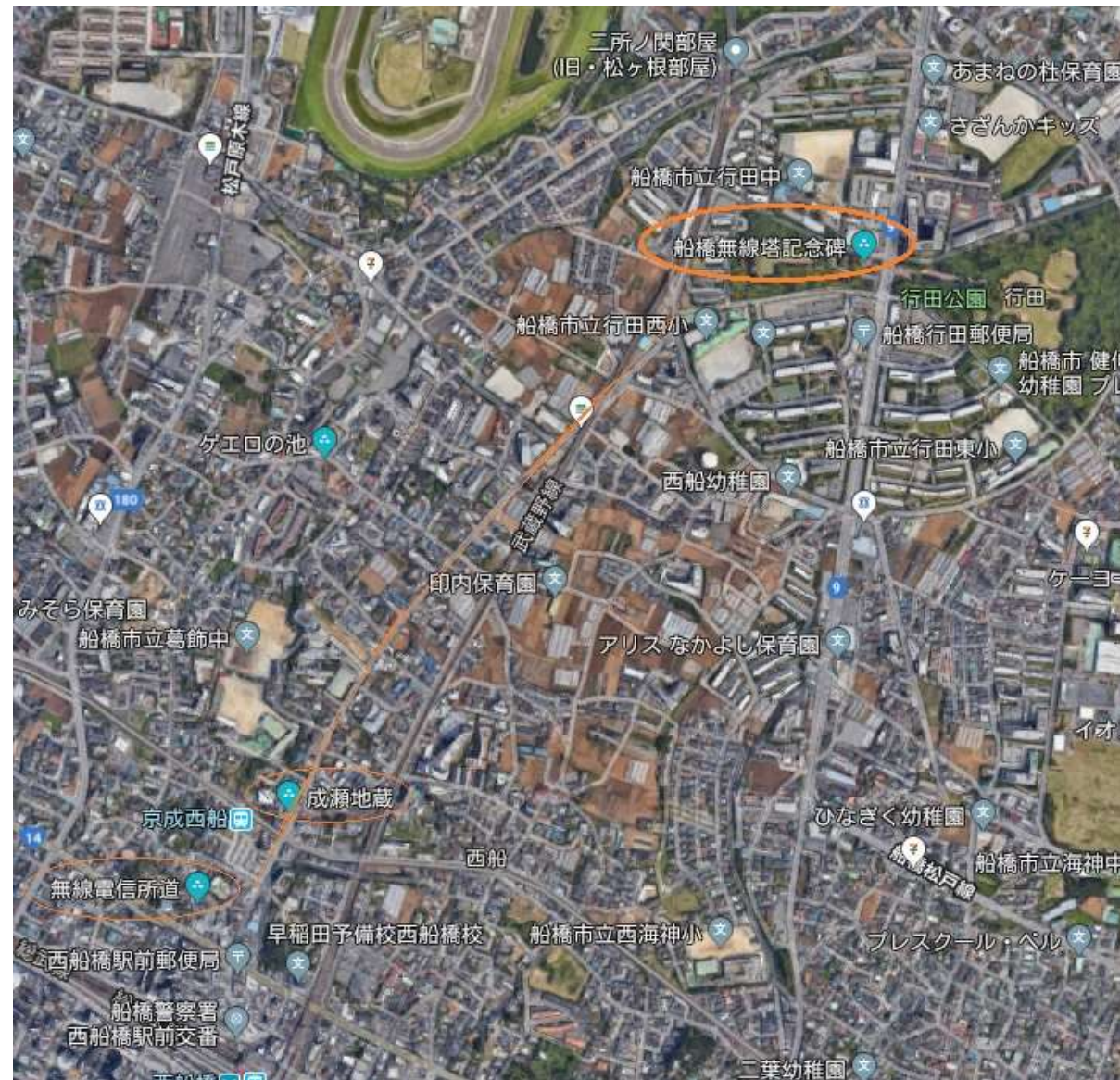
「ニイタカヤマノボレーニ〇八」を発信した行田無線電信所への道標。

前の道を千葉街道に出た角にありましたが、千葉街道の道路改修のため、この三叉路に移されました。



左側「東 船橋方面ニ至ル 西 市川方面ニ至ル」

右側「従是北八百餘間 至無線電信所 大正六年行啓 奉迎ニ付国県郡費補助ヲ受ケ耕地会沿道民ノ寄附並村費金四千餘円ヲ以テ葛飾村ニ於テ大改修工事ヲ施行セル記念ニ建之」



印内町 木戸内地蔵堂 伝・成瀬地蔵像



小字「木戸内」あたりは、江戸時代犬山城主成瀬氏の陣屋があったところといわれている。

堂内の地蔵尊像は貞享4年(1687)、地元の子らの供養と、成瀬正成の孫で5歳で夭逝した之虎の供養のために、「念仏講連衆」女性19名と、印内村・木戸内村名主田中徳左衛門および忠左衛門が建てたもので、高さ1.5m。

左前は十九夜塔、寛延2年(1749)

「奉造立如意輪観世音 十九夜 講中為二世安楽」の銘





正延寺の如意輪観音像十九夜塔
左から年不明
享保3年（1718）寛延元年（1748）文化6年（1809）

正延寺

明治41年（1908）、ここより東にあった正覚寺と、延命院が合併した真言宗豊山派寺院。

本尊の胎蔵界五智如来像は、正覚寺の地中より掘り起こされたもので、平安時代の作と推定されており、船橋市最古の仏像で県指定の文化財になっている。御開帳は、元旦のみ。（左上の写真は、船橋市のHPから）

本殿前の左手樹木の下には江戸時代の「十九夜講中」がある。

春日神社（印内の鎮守）

奈良の勝間田の池と共に、奈良の春日山になぞらえた小山（元の西図書館にあった山）の上にある神社

1月23日に「おびしゃ」が行われる。

国道（佐倉道）沿い参道に、新しい門ができた。



山野の浅間神社

現在も富士講が存続する、山野村の鎮守で、東京湾三浅間（砂山＝茂呂浅間・稲毛浅間）の一つ。

神社が載る砂丘全体がご神体といわれる。

祭神は木花開耶媛命。



↑7月1日の山開きの祭礼

2010.7.1筆者撮影

←浅間神社本殿

(公式FB「山野浅間神社祭礼」から)

浅間神社の北側へ降りると、五合目に小御嶽神社、麓に里宮がある。

こちらが本来の入口で、参道をたどると「御手洗の池」跡（次郎太郎の池跡）があり、この道は「佐倉道」と伝わる。



龍王山海蔵寺大覚院（赤門寺）



もとの西海神村と船橋山谷海神の境、現在の海神三叉路際にあり、「あかもんでら」と呼ばれている。

天正十七年秀巖和尚の創建と伝えられるが、これより古いともいわれている。

元は鎮守龍神社の別当であり、海上安全を祈る寺であった。

戊辰戦争の際、大覚院周辺まで徳川方脱走兵が来たが、兵火はまぬがれた。

本堂は、大正11年大改築。昭和58年、四国の地形を模した庭園に、大師像が建立、八十八の敷石の下に、四国の各寺のお砂がうめられ、参詣する人が多い。

令和元年5月に山門と本堂が新築、落慶法要が営まれた。

大覚院山門前の「廻国塔」 (旅宿塔)

廻国衆とは、遥か後の弥勒菩薩救済まで、「大乘妙典法華経」を守るため、六十六国の霊場に納経して廻る行者のこと。

大覚寺門前には二基の廻国塔があり、うち一基には、万延元年(1860)、「奉納大乘妙典日本廻国衆 五千人供養塔 百番巡礼衆比丘尼方 四十四ヶ年之間施宿」ほかの銘が刻まれています。

長旅の廻国衆をねぎらい勧進に応えることは、廻国と同じ功德があるとされ、「比丘尼」=八郎左衛門の妻は、44年間に五千人もの廻国衆をもてなした。

八郎左衛門は、大覚寺に残る天保二年「西海神村塩浜検地帳」では、十八反四畝の塩田を有する家の主人であった。

(『続房総の石仏百選』房総石造文化財研究会から)



六十六部『日本風俗図絵 第七輯』



「海神」地名ゆかりの神社

明治期まで「海神」は、「海神村」と「西海神村」に分かれた別の村で 船橋宿の海神は「船橋海神」、栗原八ヶ村の一つの西海神は「行徳海神」とも呼ばれてであった。

「海神」の地名の由来：日本武尊が当地へ賊徒平定に来た時、海上に光り輝く船があり、近づくと柱に神鏡が懸かっていた。それを浜に持ち帰り祀った場所であることが由来という伝説が有名である。

入日神社（海神）・龍神社（西海神）の参道が海から続いており、両者、若しくはどちらか一社が海を越えてやってくる漂着神（伝説）より起源であるとされる。

入日神社（海神上組の鎮守）



龍神社（西海神）

「石芋伝説」や「片葉の葦」の話が伝わる。
大覚寺が別当



海神念仏堂 木造阿弥陀如来立像・天道念仏



木造阿弥陀如来立像

海神念仏堂には、平安時代末期の作と推定される端麗優美な定朝様で、像高70cm、寄木造の阿弥陀像が祀られ、船橋市の文化財に指定されています。

念仏堂の縁起によると、この像はもともと当地の天摩山善光寺(現存せず)にあったが、寺が火災にあい、小金(現在の松戸市)の東漸寺に預けられていたものを、江戸神田の高麗屋佐次右衛門が請い受けて、念仏堂に納めたものと伝えられています。(「阿弥陀如来像」=船橋市公式HPから)

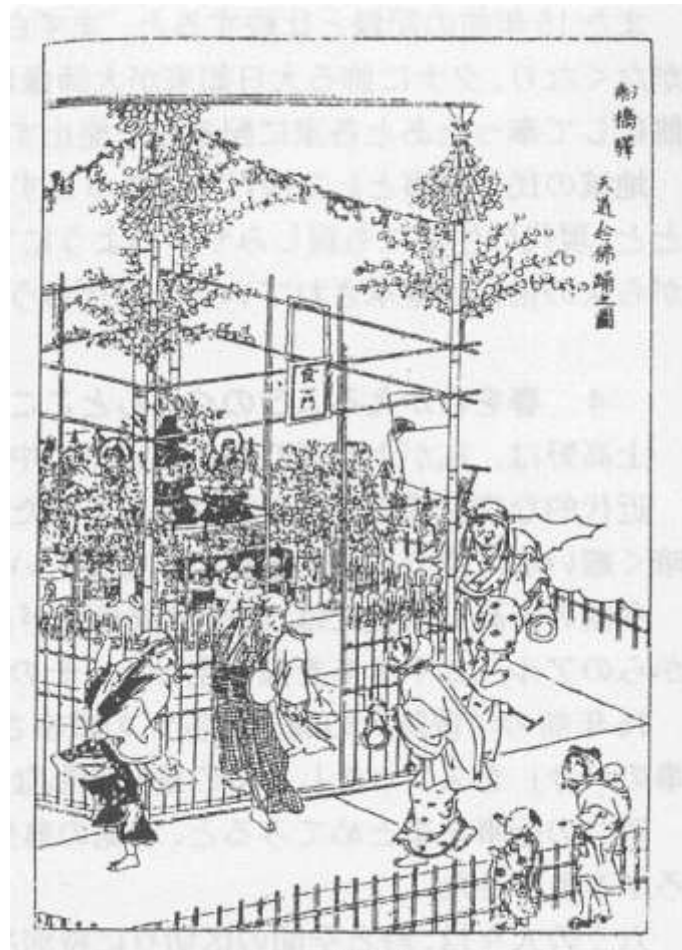
天道念仏

この念仏堂では、毎年3月の第2日曜日に、伝承行事「天道念仏」が行われます。

冬から春にかけて太陽の力の復活の時、五穀豊穡を祈る行事です。

祭壇の「梵天」を立て、その前に大日如来を祀り、「講」の人々が祭壇の前で念仏を唱え、梵天の周りを、鉦かねと太鼓に合わせ「テントウダー、ナンマイダ」と唱えながら廻ります。

また葛飾大師68番札所もあります。



海神念仏堂 元禄七年銘道標

元禄7(1694)年10月26日の銘がある船橋市内最古の道標です。

もとは70mほど北東と寄り、現在は陸橋下となっている三叉路に建てられていました。

道標正面の「右 いち川みち」は、この三叉路のある船橋市海神から、市川市八幡を経て同市市川へ至る道(佐倉道の一部)を示します。

「左 行とくみち」は、船橋市山野町、市川市原木を経て同市本行徳へ至る道(行徳道)を示します。



所在地図
(●・・・現在地 ○・・・元の位置)

銘文

(右) 是よりいち川

(前) 右いち川みち
左行とくみち

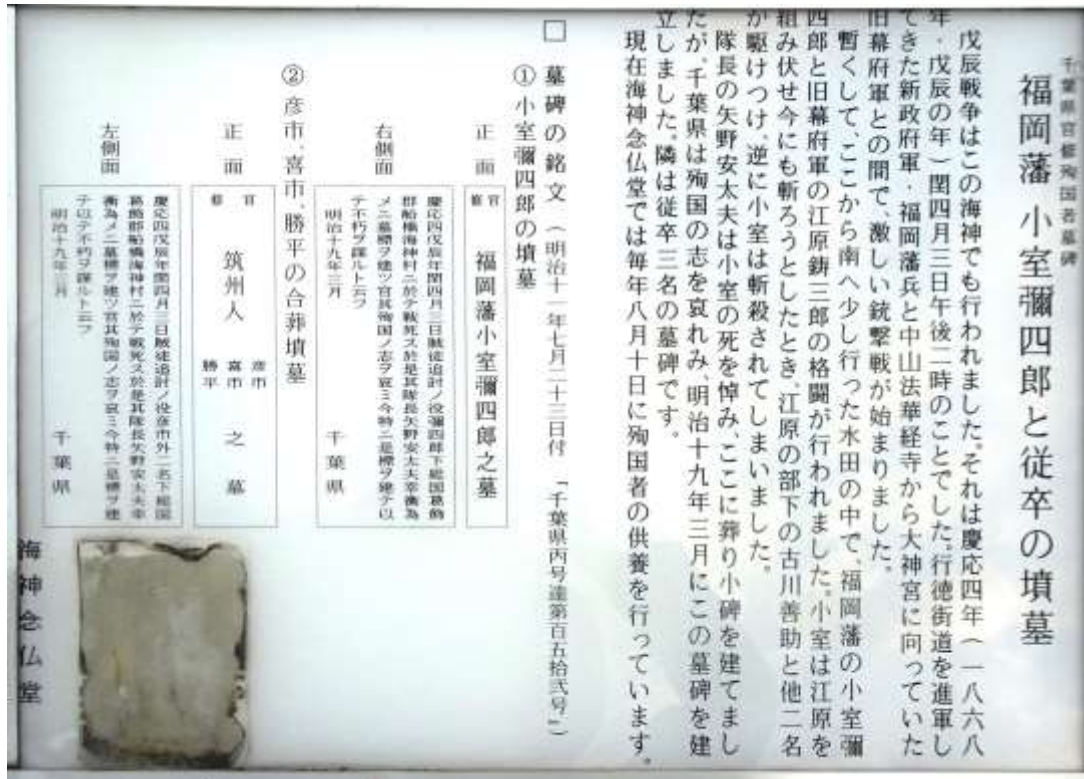
(左) 是より行とく

(後) 甲 海神村
元禄七歳十月廿六日
戊 講中間



海神念仏堂 戊辰戦争の官軍戦死者の墓

戊辰戦争「船橋の戦い」の官軍戦死者「福岡藩小室彌四郎之墓」(写真右)が、左には「築洲人 彦市 喜市 勝平之墓」がある。(明治19年3月)



「船橋の戦い」と江原鑄三郎（素六）

幕臣の江原鑄三郎は、江戸から脱走した撤兵隊の部下を鎮めるため、木更津へと向かった。

木更津では、すでに意気盛んな兵士たちが徳川義軍府を立てていたが、作戦・防戦計画は何一つなかったため、鑄三郎は黙って見過ごすことができず、陣地の構築や、作戦行動の指揮をとることになった。

官軍側参謀長が鑄三郎に降伏を進めてきた際は、部下たちの気持ちを考慮して、降伏の申し出を断腸の思いで断ったとされている。

八幡の戦いから海神の戦闘の中で、鑄三郎も弾丸で撃たれ、江原隊は壊滅した。

戦いの後、従者2人と船橋の山野村に残り、鶴岡伊右衛門に匿われながら1ヶ月ほど山野村を転々とした。1ヶ月間に何とか歩けるようになり、江戸に連絡し、船橋から漁船を使って江戸に向い、新政府側に投降し、新しく徳川家の当主となった徳川家達に仕えて静岡藩に下向した。

後に「江原素六」と改名し、この「船橋の戦い」の衝撃から、キリスト教信者となって、日本基督教団沼津教会を設立。東洋英和学校の幹事・校長、そして麻布中学校の校長など、政治家・教育者として名を残すことになった。

勝軍山地蔵院

真言宗豊山派寺院 本尊は光明地蔵菩薩

「船橋町誌草稿本」によると、天正3年（1575年）僧長蓮、法印勝誉が創建、伽藍を建造し勝軍山地蔵院と称したとある。

その後、永禄年中、慶長年中と幾度か再建され、明治期には海神小学校の前身である用九小学校であった。（地蔵院公式HP）

元禄十五年の「下総国葛飾郡船橋海神村検地水帳」に境内一反四畝二六歩とあり、水神社・稻荷社・山王社・地蔵堂を支配していた。

寛政十二年の書上帳によれば、勝軍山と号し、本尊は光明地蔵尊（菩薩）、境内は一反四畝二六歩であった。

なお光明地蔵菩薩厨子の背銘によれば、享保八年四月二十日から六月晦日まで、江戸愛宕山で出開帳を行っている。

四国八十八か所霊場第三十三番札所を示す文化7年（1810）の角柱型標識塔、宝永元年（1704）・享保17年（1732）の十九夜塔、元文元年（1739）の宝篋印塔がある。





日枝神社

海神下組(山谷)の鎮守

この神社の境内の一角には、安永8年(1779)駒型庚申塔など、石祠、庚申塔が集められている



西向地藏尊



ここは九日市村と海神村との村境で刑場があったと伝わる。

西向きに建っていることから「西向地藏」とよばれている。

向かって右側が佐倉道旧道で、左に曲がってから本町通の北側に行く。

左の広い道が「本町通」で慶長19年(1614)に造成された東金街道である。東金街道の基点という。

葛飾大師32番札所がある。

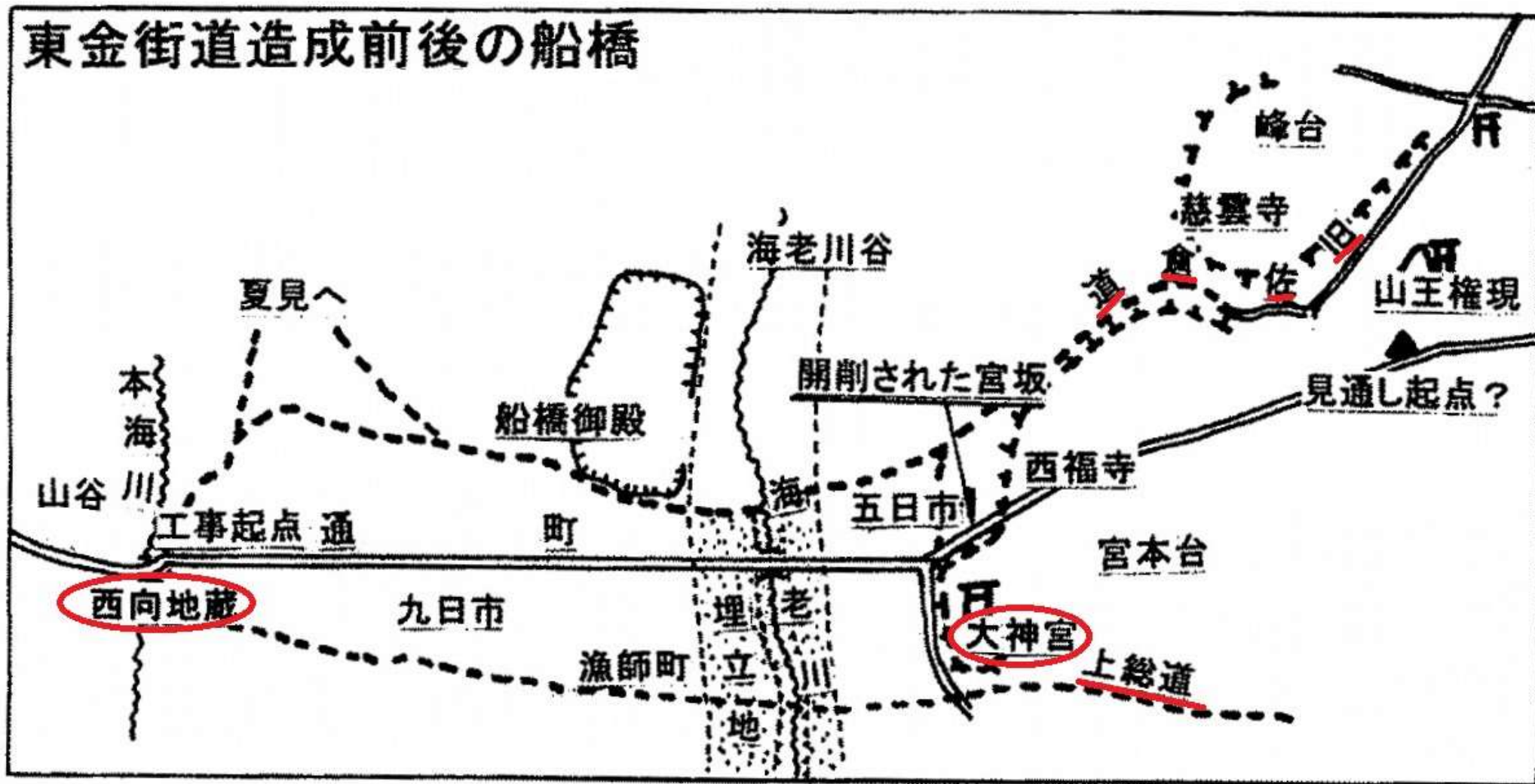


「西向地藏」

万治元年建立の延命地藏立像で、船橋市内の年代がわかる一番古い石仏である。

船橋宿 東金街道造成前後の様子

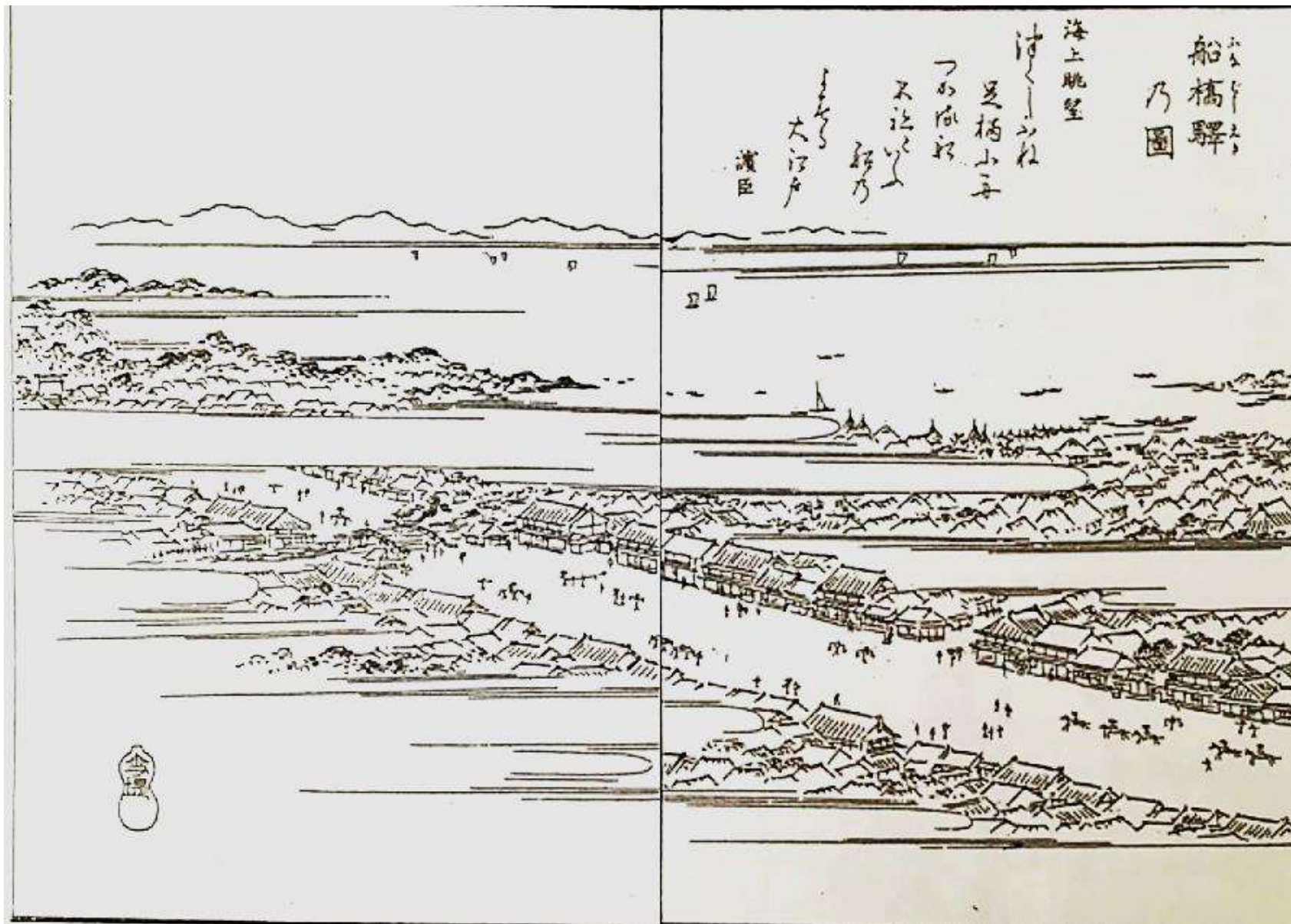
本町通は西向き地蔵から船橋大神宮へまっすぐに伸びている。
通りの北側が御殿通り（旧佐倉道）で、東照宮や九日市村郷蔵跡などがある。
当時の海老川は幅広く、埋め立てて町域が作られている。



図中の地名は当時のものではありません

H15・3・10滝口作図

「船橋驛乃圖」『成田名所図会』



安政5年(1858年)に清宮秀堅が著した「成田参詣記」の挿絵として長谷川雪堤が描いたものです。当時、街道一の宿場として賑わっていた九日市村中宿周辺ですが、この絵は海老川や船橋大神宮、そして江戸湾まで描かれています。

旅館桜屋跡 明治天皇船橋安在所



明治天皇の最初のご来県は、明治6年(1873)4月29日から5月1日までで、近衛兵の演習をご覧になるために大和田原へお出ましのことです。

この第1日目に昼食をとられたのが、当時船橋町九日市の旅館業桜屋、山口丈吉宅(現在の千葉銀行船橋支店の位置)です。

この後も山口宅をしばしばご利用になり、通算して宿泊10回、昼食5回、小休憩2回におよび、千葉県では最も多く立ち寄られた場所でした。

出典: 船橋市公式HP 教育委員会文化課

船橋宿 本町通りの古い家屋

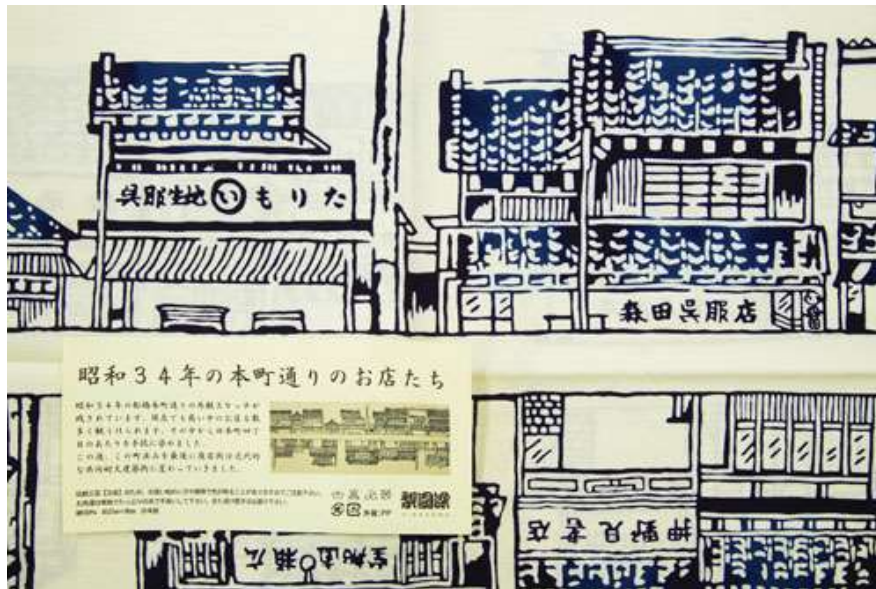


船橋宿は戊辰戦争の戦災で焼かれたので、江戸時代の建物は無い。そのとき、廣瀬家の江戸時代の建物は大神宮のおかげで無事だったという。

←写真の「ひろせ直船堂」は大正7年に建てられたもの。創業は安政年間（1854～60）という。

現在和菓子屋を営む「ひろせ直船堂」は明治期に廣瀬直次郎が、直次郎の直と船橋の船を入れて商店名としたという。建物は市の「景観重要建造物」指定

「森田呉服店」（「ひろせ直船堂」の向かい 写真→）
創業140年の和装専門店。木造二階瓦葺、切妻造。



船橋宿の概要

- ・天正20年（1590）、徳川家康の江戸入りとともに船橋市域を含む下総の国は徳川氏の領地となった。
幕府の関東支配の手段として、佐倉藩や大多喜藩などを設置し、慶長18年（1613）12月、東金で鷹狩をするため、佐倉藩主土井利勝に命じ、船橋から東金までほぼ一直線の約37kmを約一か月で完成させ、船橋に御殿を新設した。船橋宿は幕府領であった。
- ・地理的位置：房総往還・佐倉街道・東金街道が分岐する交通の要路となり、継立て場として五日市村・九日市村・海神村からなる宿場町が発展した。
- ・旅籠、桜屋・佐渡屋など約30軒。寛政12年（1800）の人口は5000人。

寛政12年（1800）における行き先と運賃一覧

行き先	距離	本馬 運賃	半馬 運賃	軽尻 運賃	人足
行徳	2里8町	82文	68文	46文	41文
八幡	1里半	58	46	37	29
馬加	2里	74	46	37	29
犢橋	3里	122	102	67	59
大和田	3里9町	運賃は上	記に同じ		
大森	6里	324	282	232	160

船橋東照宮と九日市村郷蔵跡

船橋東照宮

御殿通りから北へ入ると東照宮がある。祭神は徳川家康・秀忠父子である。

この東照宮は全国で最も小さい東照宮といわれている。

家康が新築させた船橋御殿の跡地である。船橋御殿は徳川家光の代まで使われた。市指定史跡。



御蔵稻荷（本町4丁目）

御蔵稻荷当時飢饉に備えて穀物を蓄えておく郷蔵（ごうぐら）を建てた。

そのお陰で以後、当地では飢饉を免れた。

村人はその恩に報いるために、神社を祀るようになったと言われ、これを御蔵稻荷と呼ぶようになった。



海老川橋



海老川橋は、九日市村（西側、橋戸）と五日市村（東側、川端）の境にある。

中世には海老川の川幅が2~300mあり巨大な船橋が架けられた（位置は異なる）。
「船橋」地名の起源となった。



船橋地名発祥の地モニュメント

次回12/11の座学は、村田先生による「大神宮下駅～勝田台駅」です。お楽しみに！



ご清聴ありがとうございました。
蕨 由美